

●雨・霽・雪。降ってほしくはないけれど

逃げ場の無い待機中に雨や雪が降り始めたら……。考えたくもない状況だが、残念ながらあり得ない話ではない。冬の東京は乾燥した晴れが多く、雨はあまり降らない傾向にあるが、それでも降る時は降る。ちょうど1年前の冬には、ほぼ丸1日雨だったことがあった。

夏のように突然激しい雨が降ることはないが、少しでも濡れば寒さは一層厳しくなるし、当然なかなか乾かないので、冬コミでも雨対策は必須なのだ。特に目的の場所が大手や企業目当ての参加者には雨の中で一定時間耐えられる高性能のポンチョやレインウェアを用意してほしい。当然、降雨降雪が予想される天候なら靴も防水防滑を考えてしっかりしたアウトドアシューズ系が良いだろう。忘れがちだが雨具を拭いたり簡易防寒具としても大活躍のタオルも多目に持っておきたい。

なお、どうしても雨装備の重量とボリュームを装備品から除きたいのであれば、天候悪化の危険がないような状況なのか、気象情報をよくよく研究してみよう。夏と異なり、夕立ちのような急な気象変動はまず無いので完全に高気圧に覆われているならほぼ雨のリスクは考えなくても良い。

■■インフルエンザを食い止めろ■■

ご存知の通り関東の冬は空気が乾燥し、毎年のようにインフルエンザや風邪が大流行する。日本全国から集った大勢の参加者が会場内に押し合いへし合いするコミケットでは一歩間違えば大量感染（パンデミック）の危険がある。

あまりに見慣れた光景過ぎて感覚がマヒしてしまいがちだが、インフルエンザは立派なウイルス性感染症。いわゆる風邪とは全くの別物であり、気合や根性が通用する病気ではない。コミケットの全参加者には、インフルエンザウイルスを会場に持ち込まない、持ち帰らない努力義務があると知ろう。

——■風邪かな？と思ったらインフルエンザも疑うべし■——

『体調が悪い時には人ごみには行かない』というのは誰でも頭では分かっているだろうが、いざコミケットの当日になって、多少体調が悪いがまあ頑張れそう、という状態だったらアナタはどうするだろうか？

『年に2回の特別な機会だから』と、自分に言い訳をしながら無理をしても参加してしまうという人は実は少なからず存在するだろう。

しかし、それで会期後に倒れるだけならまだしも、会期中に倒れれば周囲の参加者たちにもスタッフにもイベントとしてのコミケットにも多大な負担と迷惑を強いるし、その上もしアナタがインフルエンザだったなら（インフルエンザには潜伏期間があるので本格的な症状が出る前に会場に赴いてしまう可能性は十分にある）、出かけるのに使った交通機関と会場内で一体何人が感染の危険に晒されるのか数えることも難しい。もしそうでなく、ただの風邪や過労だったとしても、そもそも体調が悪い、非常に疲れているといった抵抗力が低下しているところにインフルエンザウイルスに感染すれば症状が重篤化してしまうかもしれない。結局どう転んでもリスクが大き過ぎるのだ。

インフルエンザは風邪ではないが、初期症状は風邪に似ている。前日、当日に『風邪っぽいかな？』と思ったらそのまま参加はしない、会場内で気付いたらその時点でできるだけ早く撤収することを、自分とコミケットと全参加者を守るためのルールとして決めておこう。

なお、サークル参加者は特に無理をおして参加してしまいがちだが、会期中に体調を崩してしまった際には撤収も帰宅も簡単ではないので、一般参加者よりも一層コンディションには注意を払い、危険そうな時には参加を見合わせる判断を下せるようにしてほしい。

サークル参加者が体調不良でやむなくコミケットを欠席した場合、未使用の通行証は後日忘れずに準備会まで返送すること！（詳しくはコミケットアピール参照）

●往復の交通機関や入場待機列ではできるだけマスクを着けよう。埃を防ぐためだけでなく、冷たく乾燥した空気を直接吸わないようにすることで喉の渇きを防ぎ（これにはインフルエンザ予防の意味もある）、体温保持の面でも有効だ。

●うがいと手洗いに勝る防疫はない。トイレに行ったら石けんでよく手を洗い、うがいをしよう。もちろん、帰宅後も真っ先に行くこと。当然飲食の際には手指を除菌ウェットティッシュなどで拭いてから！

